

2019年8月4日(日)朝10:10～

主の聖霊降臨節第9、コリニア等

8月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**悪霊を追い出された男を見て(30節)**

聖書：マタイ 8章28～34節

＜口語訳＞

新約聖書12～ 頁

マタイ 8章28～34節

＜新共同訳＞

新約聖書14～ 頁

マタイ 8章28～34節

＜新改訳第3版＞

新約聖書14～15頁

マタイ 8章28～34節＜塚本訳＞

新約聖書88～89頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日の**マタイ8:28～34**は、「**悪霊を追い出された男を見て(30節)**」が主題で、ユダヤ人が嫌われる「**ガダラ人の地**」へ**マタイ18:18～27**で、**御子イエス・キリスト様**は、律法学者や弟子たちに、従ってこれるかどうかを試されました。
- ⇒「**ガダラ人の地**」は、デカポリスで、ガリラヤ湖の南東の草原地帯です。デカポリスは、10の町と言う意味で、ギリシャ人が、10の町を作ったと言われていています。当時は、豚が飼育されていて、ユダヤ人が最も嫌っていた地でした。
- ⇒そこに、敢えて、**御子イエス・キリスト様**は、律法学者や弟子たちを導かれたのです。
- ⇒百人隊長の僕の癒し等の外的要因に対し、此処では、内面・本質面が扱われます。**悪霊(悪鬼)戦い**が主の扱いたかった主題でした。

本論；

◇本日、**マタイ書8章28～34節**から主の**使信**に**思い・心vous**をとめます。

◆**マタイ8章28～34節**；使徒**マタイ**は、**神の御子イエス・キリスト様**が「**悪霊を追い出される(30節)**」のを見せ、「**悪霊(悪鬼)との戦い**」が、「**なんでそんなに臆病なのか信仰の小さな人たちよ**」と、「**主の弟子たち**」に語りかけられました。

◇**28～34節**；**塚本訳◆ガダラの豚**

「28 かくて向う岸、ガダラ人の地にお着きになると、悪鬼につかれた者が二人、墓場から出てきてイエスを迎えた。彼らは非常に狂暴で、だれもその道を通ることが出来なかった。

29 彼らはいきなり叫んだ、「神のお子様、『放っておいてください。』まだ時でもないのに、わたしどもを苦しめるためにここに来られたのか。」

30 折から、はるかかなたに多くの豚の群が草を食っていた。

31 悪鬼どもは、「わたしどもを追い出されるなら、あの豚の中にやってください」と願った。

32 イエスが「行ってよろしい」と言われると、悪鬼どもは(二人から)出て行って豚に入った。すると群衆は皆(気がちがったように)けわしい坂をどっと湖へなだれこみ、水の中で死んでしまった。

33 豚飼たちは逃げ出して町に行き、この一部始終、ことに悪鬼につかれていた者に起ったことを知らせた。

34 すると町中(の者)がイエスに会いに出てきて、イエスに会うと、その土地を去られるようにと頼んだ。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**28～31節**；「かくて向う岸、ガダラ人の地にお着きになると、悪鬼につかれた者が二人、墓場から出てきてイエスを迎えた。彼らは非常に狂暴で、だれもその道を通ることが出来なかった」、「神のお子様、『放っておいてください。』まだ時でもないのに、わたしどもを苦しめるためにここに来られたのか。」、「悪鬼ども、『わたしどもを追い出されるなら、あの豚の中にやってください』願った」、「ガダラ人」は、10の町の同盟軍のようにできた地域の異邦

人の名の一つでした。ユダヤ人も居住していたようですが、ユダヤ教からすれば当時妥協し、墮落し、汚れた動物だった豚も飼っていたのです。

⇒**御子イエス・キリスト様**は、「異邦人」が大勢の町で、**悪霊(悪鬼)**が乗り移っている人の内面と、戦ってくださったのです。律法学者は勿論、弟子たちも、汚れと妥協の世界を見て、驚きとなぜ、この地にと疑問を感じていたでしょう。

⇒しかし、汚れと妥協の心の世界こそ、救いを求めていることを**御子イエス・キリスト様**は、教えたかったのですし、そこは、**悪霊(悪鬼)**も、人々の心を蝕んでいたことを特に弟子たちに実感してほしかったのです。

◇**32～34節**；「悪鬼どもが、『わたしどもを追い出されるなら、あの豚の中にやってください』と願ったので」、「イエスは、『行ってよろしい』と言い」、「悪鬼どもは(二人から)出ていって豚に入った。すると群衆は皆(気がちがったように)けわしい坂をどっと湖へなだれこみ、水の中で死んでしまった」、「豚飼たちは逃げ出して町に行き、ことの一部始終、ことに悪鬼に

つかれていた者に起ったことを知らせた」、
「すると町中(の者)がイエスに会いに出て
きて、イエスに会うと、その土地を去られるよう
にと頼んだ」と、**御子イエス・キリスト様**は弟子
たちともども、ガダラ(デカポリス)から追い
出されてしまったのです。

⇒特に弟子たちは、**悪霊(悪鬼)**を追い出し、
元気になった人を見て、主のわざに感動する
はずなのに、豚飼いたちの利益中心のことば
に失望もしたのです。

⇒現代の社会の縮図のような出来事でもあり
ます。相手を誹謗中傷する人が、選挙で勝ち、
自分たちの政治手法を押し通して、結果は、
借金の増加、政治・官僚の汚職には蓋をして、
自分たちの任期の間だけの政策をとるの
です。原発にしても、原発政策をとった者は、
言い逃れて、実際の原発事故を管理でき
なかった人々の責任追及に終始します。

⇒福音の世界でも、主のことばに力があるの
ですが、この世の力や習慣が優先され、議論
の議論で終わってしまいます。教会も、妥協と
慣習の優先社会になりやすいのです。

- ⇒一方、**悪霊(悪鬼)**に憑かれた人は、現代では、精神を病んだ人たちに区分をされ、多くは薬づけです。心の会話をすることが少ないのです。「まだ時でもないのに、わたしどもを苦しめるためにここに来られたのか。」と、**悪霊・悪鬼**が言わせていると、**使徒マタイ**は、記録します。
- ⇒勿論、**悪霊(悪鬼)**を私たちは自由にできませんし、医師ではないので、正式の診断書も書けません。
- ⇒主の祈り、使徒信条とも、**悪霊(悪鬼)**に触れず、「**悪**」と表現して、それを回避できるように、救い出して下さるように祈れと表現します。
- ⇒朝の日課になっていますヘブル書は、**悪霊(悪鬼)**とならず、忠実に主に仕える御使いは、**御子イエス・キリスト様**にまさることはないと言っていますし、SY師が引用のように、ヘブル1:14、「塚本訳；(要するに、)天使とはみな(ただ)奉仕する霊であり、救を相続すべき者のために務めをなすべく(神から)派遣されたものではないか。(御子にくらべられないのは当然である。)」が、本来の役目で、**悪霊**

(**悪鬼**)は、**御子イエス・キリスト様**も、荒野で試みたり、十字架に追いやったりする人々の心や忠実な弟子ペテロに主を否ませたのです。多くは分かりませんが、**悪霊(悪鬼)**は、**御子 イエス・キリスト様**に敵対する霊であることを知っておき、むしろ聖霊に満たされることを求めたいと願います。

⇒聖霊は、神の義につき、裁きについて、私たちが理解できるように助けて下さいます。分からないことに拘らないで、求められていることに前向きでありたいと思います。

⇒この人と特定はできませんが、**悪魔と悪霊(悪鬼)**は、この世が存在する限り、主の敵対勢力として働きます。聖霊も、弱い私たちを助け、失望したパウロや失敗したペテロに前向きで、殉教に立ち向かう力を与えて下さいました。

⇒先週木曜日(8月1日)、YYと信仰の仲間として生き、私とは台湾の山地に宣教に出かけた仲間ですが、主のみ許に召されました。体調が悪いのに、東京から故郷呉市に旅し、庄原でYSが病んでいることを知って、奈良市あた

りで一度は引き返そうかと考えるほど体調を崩し、庄原教会の2階牧師館まで、ふわふわして宇宙を遊泳している感じだと言いながら、病を押して門安して下さいました。

⇒「ガダラ」は、汚れと妥協と悪の蔓延るこの世・社会です。**御子イエス・キリスト様**と歩む人は、**悪霊(悪鬼)**に支配されず、「**悪霊を追い出された男を見て(30節)**」、益々聖霊の御声に聴くことを優先しています。

⇒私たちも、私たちより若い人たちが召されるのは、辛くても、主は、多くの人々が嫌うガダラの地を訪ねて下さるのです。感謝し、祈りましょう。

結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓(説教)**の箇所です。
- ◇本日の**マタイ8:28～34**は、「**悪霊を追い出された男を見て(30節)**」が主題で、ユダヤ人が嫌われる「**ガダラ人の地**」へ**マタイ18:18～27**で、**御子イエス・キリスト様**は、律法学者や弟子たちに、従って来れるかを試されました。
- ⇒「**ガダラ人の地**」は、デカポリスで、ガリラヤ湖の南東の草原地帯です。デカポリスは、10の町と言う意味で、ギリシャ人が、10の町を作ったと言われていています。当時は、豚が飼育されていて、ユダヤ人が最も嫌っていた地でした。
- ⇒そこに、敢えて、**御子イエス・キリスト様**は、律法学者や弟子たちを導かれたのです。
- ⇒百人隊長の僕の癒し等の外的要因に対し、此処では、内面・本質面が扱われます。**悪霊**

(悪鬼)戦いが主の扱いたかった主題でした。

◇ガダラの**悪霊(悪鬼)**に憑かれた人の心を支配していた**悪霊(悪鬼)**が、「神のお子様、放っておいてください。まだ時でもないのに、わたしどもを苦しめるためにここに来られたのか。わたしどもを追い出されるなら、あの豚の中にやってください」と叫ぶ声を聴き、**悪霊(悪鬼)**に「行ってよろしい」と、赦しを出されたのです。

⇒まして、「**悪霊を追い出された男を見て**(30節)」、聖霊に満たされて、**御子イエス・キリスト様**と歩むのを喜んで下さいます。

⇒妥協と汚れと悪の蔓延する社会、あるいは、時には、教会があっても、**悪霊(悪鬼)**を追い出し、綺麗になった心を再び**悪霊(悪鬼)**が占領しないように聖霊に満たされ、**神の御子イエス・キリスト様**のおことばに心を占領されたいです。